



■ビオトープ・サロン 生物多様性 ～吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会（第3回）～

去る10月5日、第3回吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会が開催され、パイロット事業（案）が選定されました。国交省徳島河川国道事務所ホームページから抜粋し紹介します。詳しくは同ホームページをご参照ください。
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/river/yoriyoi/yoriyoikawa/seitaikei/no3/seitaikei-3.htm> （編集局）

【パイロット事業（案）が選定】

■パイロット事業1. コウノトリ・ツル類等の生息環境の保全・再生

現在、鳴門市において定着・繁殖の兆候があるコウノトリの採餌、休息場所となる湿地環境を河川敷において保全・創出するとともに、過去に吉野川流域に飛来しているツル類（ナベツル・マナツル）のねぐらや採食に適した場所を保全・創出することにより、流域を越えた広域的な生態系ネットワークの拠点を吉野川流域に確保する。

期待される成果 短期（約2年間）（アウトプット指標）

- ・保全・改善されたツル類のねぐらに適した場所の面積増加
- ・保全・創出されたコウノトリ・ツル類の生息・採餌に適した場所の面積増加



■パイロット事業2. 希少種や外来生物の情報集積と、その活用による希少種の保護、外来生物の駆除の推進

吉野川流域における希少種・外来生物について、スマホ等を活用し住民参加により情報収集を図り、収集した情報を集積する仕組みを構築する。さらに、集積した情報を管理、運営、活用することで保護や駆除を推進する仕組みを構築する。

期待される成果 短期（約2年間）（アウトカム指標）

- ・外来生物の駆除面積、外来動物の駆除数
- ・蓄積された希少種の生息・生育場所数



■パイロット事業3. 食文化や生活文化・川と関わる伝統的な産業の伝承と地域振興への活用

多くの人が興味を持つ伝統的な食文化や生活文化、川と関わる伝統的な産業を活かして、自然に親しむ場や機会の増加（基本方針2）や、地域の魅力づくりや地域活力の向上（基本方針3）に資する取組を行う。推進や普及啓発の資料として「地域資源マップ」を作成するとともに、具体的な取組として、「宮川内谷川上流域でのジソク狩りなどの地域文化の継承と観光振興への活用」を実施する。

期待される成果 短期（約2年間）（アウトカム指標）

- ・マップの発行部数・Webマップへのアクセス数等
- ・イベント等への参加人数

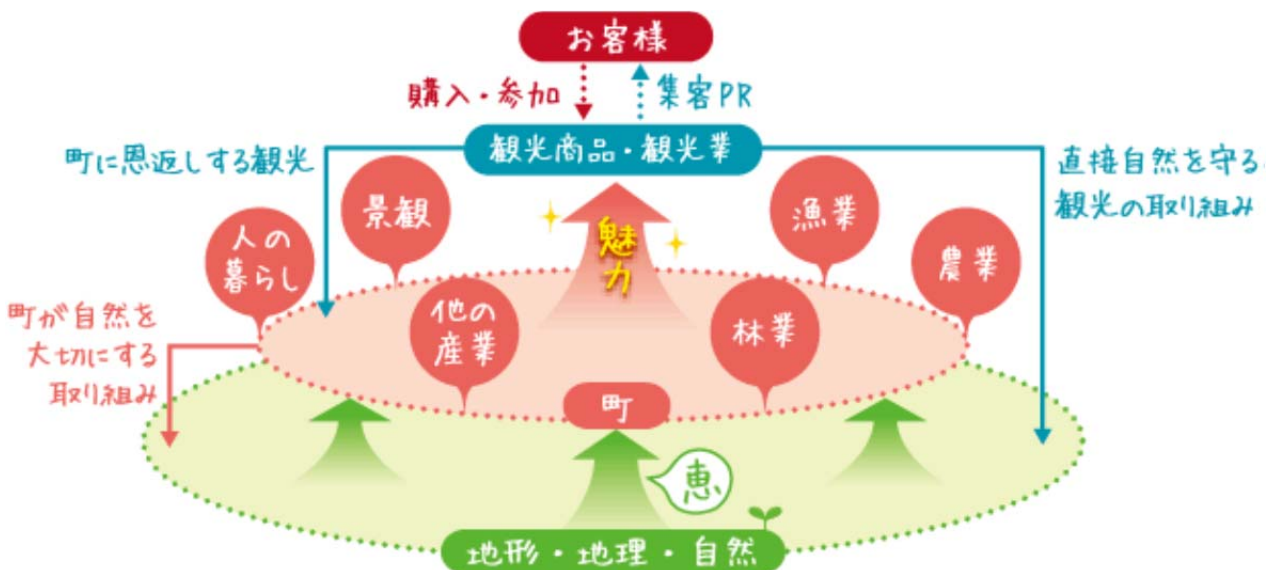


■パイロット事業4. 吉野川流域エコツアーの推進

吉野川流域の自然や文化をテーマとしたエコツアーを企画・実施することにより、自然に親しむ場や機会の増加（基本方針2）や、地域の魅力づくりや地域活力の向上（基本方針3）を図る。

期待される成果 短期（約2年間）（アウトカム指標）

- ・エコツアーへの参加者数、エコツアーに関わった地域の人の人数



出典：三重県鳥羽市 鳥羽市エコツーリズムHPより引用

ビオトープ・サロン お便りコーナー

080、081号に関連して、お便りをいただきましたのでご紹介します。(編集部)

【Iさん】151117

ありがとうございます。土木技術も先人の知恵にもっと学ぶべきですね！

11月7・8日に大学の東北応援で福島に行きました。7日、浪江町をほんの少しですが見学しました。帰還は無理です。震災直後の原発事故で直感したのは福島県民移転です。

除染も進まない、処理も決まらない、住宅も店舗も放置したままで帰還できるはずもなく、いざ帰還となっても改装や建て替えが必要なら誰がどの保証で責任を持つのかも全く不明で、浪江町民を愚弄していると感じました。直後の直感、移転は妥当と確認しました。

国も国民も現実をしっかり受け止め、覚悟が必要です。二度と原発事故を起こさない、万一起きた場合は国も国民も覚悟して救援する。事故を起こさないためには廃炉を早めて安全を確保し、担保すべきと思います。

福島浪江町の現実と沖縄の現実は、共通点があると感じます。浪江町は故郷を捨てるのは非常に辛いですが、危険な土地に帰還させる罪はぜったいに避けるべきです。

今起ころうとしているのは、危険な土地に帰還させようとしている現実があります。それは技術者としてダメだと言わねばと思います。

【Kさん】151121

081号のミノムシの話題が目にとまりました。ミノムシの異常発生、原因は何でしょうね。周りの自然環境が劣化し生物の多様性が損なわれて、生態系のバランスが崩れ始めているのかもしれませんがね。

ミノムシはミノガの幼虫で、日本に約50種類が息しているそうです。この中で最も大きいのがオオミノガで最大5センチにもなるそうです。しかし、このオオミノガが1995年頃から西日本で姿を消し始め、現在では、福岡、宮崎、山口、徳島、神奈川県などではレッドリストに掲載されるまでになってしまいました。

これは、中国南西部が原産のオオミノガヤドリバエの寄生が原因で、この寄生バエの分布が拡大しているそうです。また、高知県内ではオオミノガヤドリバエに寄生する寄生バチが8種類確認されているそうで、オオミノガヤドリバエが増え続けることを抑制していることが推察されます。

本来の自然界では長い時間をかけて食う食われる関係が成立し、特定の種だけが増え続けることはなく、減ったり増えたりしながらも、一定の範囲内でバランスがとられています。しかし、このバランスが崩れると特定種の異常発生や種の絶滅といったことの要因となります。特に人為的な作用が要因となって崩れ始めると、元に戻ることが難しくなります。多様な生物が食う食われる関係でのバランス(調整)がとれる環境が必要ですね。

以下の写真は、高知大学農学部昆虫研究室のホームページから出典し、転載しました。写真左：オオミノガ 写真中：オオミノガヤドリバエの蛹 写真右：オオミノガヤドリバエの蛹から脱出したキアシトコバチ



■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集部)

【施工部門1級の記述問題：解説は次号で紹介】

問083：地域や学校における、市民や児童・生徒が参加してのビオトープづくりに際し、事故が発生する要因、発生が予想される事故の種類を具体的に挙げ、事故を未然に防止する対応準備、事故発生時の対応準備を、400字以内で述べなさい。

■前号082(施工部門の択一問題)の正答「1」

公共工事の施工中に事前調査では見つからなかった希少種を現場で発見した場合の対応策としては、①発見したことを上司に報告、相談し、希少種について再度詳しい調査を行う。②事業計画自体の変更提案または希少種が保護される工法への変更等を検討する。

2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集部
 [E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>]